

5. 水害・土砂災害等の現状の課題と当面の進め方

(1) 岐阜県の自然、社会特性と災害状況

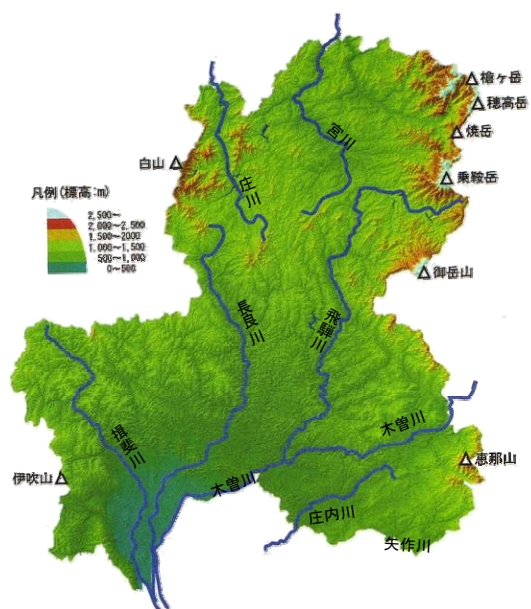
岐阜県の地形は、その東西の県境は高く急峻な山地で、この中間に一段低い山地が南北に連なり、北から南に高度を低くしています。さらに南部では、東から西に高地、丘陵地、低平地と次第に低くなっています。濃尾平野の木曽川右岸にあたる県南西部は、扇状地、自然堤防、三角州といった地形をもつ典型的な沖積平野です。

気候的には、大きく美濃と飛騨に分けられ、美濃地方は年平均気温が約15度と温暖であるのに対し、飛騨地方は年平均気温で5度程度低く、冬期の降雪量も多くなっています。

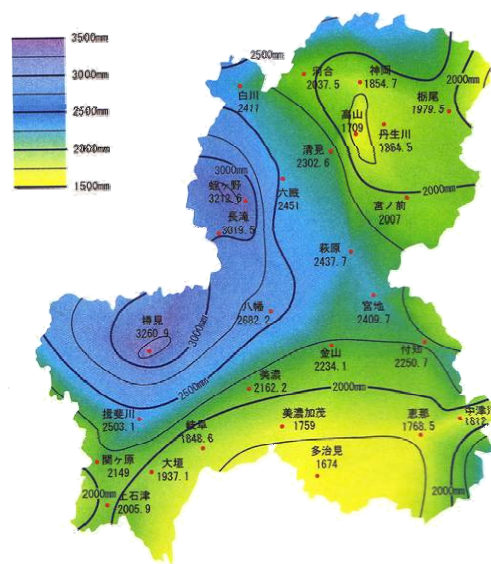
年平均降水量をみると県中央部から福井県境付近が多雨地帯であり、全体的にも全国平均より多く、県内河川の豊富な流量のもとになっています。

また社会条件として、人口、資産等は、可住地面積が広い県南部に広く分布しており、山地の多い飛騨地域では、高山市中心部等の盆地部に集積しています。

こうした本県の自然、社会条件により水害は揖斐、長良川流域等の県の南部に多く、北部等の山間地に土砂災害が多くなっています。特に、近年は降水量の変動性が増加(極端に多い降水量と少ない降水量が出やすい)しており、平成14年の台風6号、平成16年の台風23号など、甚大な被害が多く発生しています。



岐阜県地形図



岐阜県等降水量線図